

二見城(奈良県五條市二見 4) (妙住寺)

今年(2008)の4月に、松倉重成が関ヶ原の戦に功績をあげて二見城主になった400年の記念事業として、新町通りに小さな松倉公園ができました。

二見城は源氏の血をひく二見氏が築いた城ですが、二見氏が南北朝時代に足利勢に滅ぼされ空城になっていました。そして重成入城当時には、今の大川橋北詰辺りに吉野川の水運を利用する五條の商家が集まっており、二見城は町の中心から離れていました。

重成は城と町の中心を人家で結ぼうと思いついたようです。そして免許や特典を与えて全国各地から商人を集め旧伊勢街道沿いに商家の並ぶ新町を造りました。そして二見城から新町、五條と続く吉野川沿いの城下町ができました。

しかし重成は在任僅か8年で島原に転封され二見城は再び空城となり、五條は代官所が置かれる天領となりました。代官所は今の市役所の場所です。

それから明治になるまで徳川幕府の天下泰平の時代で、詣でる人の多い高野山と吉野山に近く、また河内、紀州、大和、伊勢への街道のある五條町の新町通りには行き交う旅人が増え、新町は発展してゆきました。では今は幻となった二見城を探検してみましょう。

右の地図の緑の太線は吉野川の河岸段丘の崖線でその内側が高台の二見地区で、下(南)は低地の川端地区で、右上(北東)はやはり低地の新町です。町の中心の五條は新町のさらに右(東)になります。

二見城は二見の東端の吉野川の崖の上にありました。そして吉野川の水を分流する形で深い濠を掘り二見城の城郭としました。地図の青色の線です。濠は素掘で石垣はなかったようです。

重成が島原に引っ越して二見城は長く空城が続いたので、いつの頃からかお城の濠は筏を通す水路として利用されるようになりました。

吉野川は吉野山中から材木を筏で流していました。その筏を水揚げする貯木場が水路の出口の川端に造られました。

明治の半ばには高田～五条間に南和鉄道(現和歌山線)が開通し、それを川端まで延長した貨物線もでき、鉄道で材木を出荷できるようになりました。貯木場の周りには沢山の製材所ができ川端は五條町の工場地帯として発展していきました。

戦後、材木がトラック輸送されるようになり、筏はいつしか消え貨物線も廃止されました。終戦直後のどさくさで町有地だった二見城跡は個人に払い下げられ邸宅になりました。

当時二見に住んでいた私はまだ子供でしたが、深い濠の向うは深い森だったのを記憶しています。城跡は城山と呼ばれていました。

それからさらに持主が代わり今は妙住寺になりました。濠も埋立てられ今は二見城の面影を残すものは何ともありません。

二見城跡の払い下げの経緯については奈良新聞の記者だった藤代昇さんの著書「川沿いの城下町・五條市」に詳しく記されています。

戦中戦後の食べるのが精一杯で、史跡などに関心を持つ余裕のない時期でしたが、五條市のシンボルがなくなってしまったのは残念です。

五條探検隊による

